

# 農経新聞

株式会社 農経新聞社  
 東京都品川区西五反田  
 1-27-6 市原ビル9F  
 (郵便番号 141-0031)  
 電話 東京 (03)3491-0360  
 FAX (03)3491-0526  
 ホームページ  
<http://www.nokei.jp>  
 郵便振替 00180-8-156982

さらなる生産振興に期待

## 根菜類など推奨品種続々

### 青森市中央市場で見本市 青果育種研

青果卸と種苗会社で組織する青果育種研究会(会長 川宮本修・東京青果専務)は、青森市中央卸売市場で「第136回品種見本市」を開催。生産者をはじめ地元の種類店、JA、県の関係者など200人が訪れた。東北地区で1位の農業算出額(2009年)を誇る

同県は、生産量が1位のニンニク、ナガイモ、ゴボウをはじめダイコン、ニンジンなどでも上位のシェアを占める。こうした特性に応じて、種苗会社15社が推奨品種56種類を紹介。カネコ種苗では、ヤマノイモの「ネバリストア」を出品。ヤマトイモとナガイ



根菜類以外にもトマト・ミニトマト、カボチャ、長ネギなどの品種も多くお目見え。市場の関係者も勉強を兼ねて多く訪れた。

うな品種も。セミナーでは青森合同青果の篠崎真孝社長が講演。「青森県産野菜の未来は明るい」をテーマに、各種のデ

モを交配した品種で、ナガイモのような外見のため扱いやすく、粘度が従来のナガイモの2倍以上ある。生食だけでなく加工用にも向くという。ダイコンは4社が出品し、皮が濃紫色、淡紫色になる「紅しぐれ」(トーホク)、秀品率が高く加工に適した「夏の翼」(タキイ種苗)など。ニンジンには5社が出品し、食味が良くフルーティーな「アロマレッド」(トーホク)、紫ニンジン「パールパール」(朝日工業)など、差別化につながるよ

ろつ」と呼びかけた。期待ができる理由として、冷涼な気候といった生産優位性や作付面積の増加、特産品に特化した生産などを背景とした産地としての地位の向上や、県内市場が集分荷機能を發揮していることを挙げ、これらが価格形成への影響力や手取り価格の安定に結びつくことを説明。その上で、生産者に「もっと生産拡大を図る」と呼びかけた。